

講義コード	14D2520000
講義名称	日本経済論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Japanese Economy Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	ECON1580
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
澤田　鉄平

授業形態	講義	アクティブラーニング	グループワーク
------	----	------------	---------

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	小レポート/小テスト	ディスカッション(話し合い)	協同・協調学習(グループ・ワーク、チームワーク、ペアワーク)
	ディベート(討論、討議)		

講義・演習概要	日本経済はバブル崩壊以降長期の不況に沈んでいる。それは内的には一貫した内需縮小（消費税導入、増税、少子高齢化、産業空洞化）と外需依存構造の深化に規定され、さらに外的にはBRIC's諸国の台頭、EU経済（通貨）統合など国外の経済環境変化への対応の不備に規定される。 そこで本講義では、バブル崩壊以降今日に至るまでの長期不況の構造を、世界経済の変化を踏まえつつ考察し、日本経済の構造的な課題を析出する。
学習（到達）目標	本講義に積極的に参加することを通じて 1バブル期以降の長期不況の要因についての体系的な理解 2日本経済低迷の要因についての自己の見解 を獲得することが目標である。

講義・演習計画

回	内容
第1回	本経済の学びとは何か？（イントロダクション） 新自由主義経済、失われた２５年について
第2回	主力産業の海外生産、浮かれた内需と消費税導入 ：バブル崩壊前夜
第3回	内需の急速な収縮、複合不況 ：平成大不況（その１）
第4回	不良債権と貸しはがし、倒産増大と投資低調、産業空洞化 ：平成大不況（その２）
第5回	公共事業の増加と「経済成長」、消費税増税 ：平成大不況（その３）
第6回	護送船団方式の終焉・金融再編 ：平成大不況（その４）
第7回	多軸化する世界経済と日本 ：冷戦構造の崩壊とグローバル競争の新基軸（その１）
第8回	BRIC's諸国の台頭、生産拠点から消費市場へ、そして日本との競争 ：冷戦構造の崩壊とグローバル競争の新基軸（その２）
第9回	金融再編、持株会社解禁、企業集団の再編成 ：６大企業集団の再編
第10回	インターネット時代の到来、在来型ビジネスからの転換 ：ITと日本

第11回	制度問題、都市部と地方過疎、低下する賃金と高騰する生活費 ：少子高齢化問題と雇用流動化
第12回	生み出せない内需と外需の破綻 ：リーマンショック
第13回	事業仕分け、経済低調、そして消費税増税へ ：公共事業依存型経済と改革
第14回	円安誘導、雇用創出、地方創成、対米関係、国家財政歪みの極地へ ：アベノミクスの功罪
第15回	日本経済、明日への展望 ー今、何が生じているのかー

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	
レポート	100%
その他	

成績評価の方法（コメント）	グループディスカッションに基づく課題の提出7回×10点＝70点満点。 期末レポートの提出1回×30点＝30点満点。 以上の合計、100点満点の課題・レポートを採点して成績を評価します。
---------------	---

参考文献	紺谷典子（2008）『平成経済20年史』幻冬舎新書。 橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齋藤直（2011）『現代日本経済 第3版』有斐閣。
事前および事後学習の指示	参考文献のうちのいずれかを選び、バブル崩壊後の日本経済について予習すること。また講義各回はその前の回までの講義を前提とするため、各回を入念に復習すること。 M-Portに資料をアップするので、講義内容を繰り返し読み、わからない部分については自分で調べ、それでも理解できない場合は教員にM-Portで質問すること。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
備考(管理者用)	（旧：日本経済論）02～10生読替

講義コード	14D3620000
講義名称	金融論Ⅱ　＜秋＞
科目英文名	Financial Theory Ⅱ
開講責任部署	経済学部　経済学科
代表ナンバリングコード	FINC2430
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
星野　聡志

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。
	その他
	なし

講義・演習概要	金融論Ⅱでは、マクロ的な観点から金融について学習していきます。具体的に取り扱う内容としては、まず、貨幣や金利といった金融政策を学ぶ上での基礎知識を身につけた後、金融政策に関連する内容を学習します。そして、金融秩序の維持とそのために必要な政策 についても学びます。
学習（到達）目標	金融に関連する政策についての基礎知識を身につけることを通して、現実で生じる金融的な現象について考える力を身につけることを到達目標とします。

講義・演習計画

回	内 容
第1回	ガイダンス（講義計画、成績評価などの説明）・金融の観点からみた日本経済の特徴
第2回	金融基礎知識 復習（1）：貨幣の存在意義
第3回	金融基礎知識 復習（2）：金利（金利の見方）
第4回	金融基礎知識 復習（3）：金利（イールドカーブ）
第5回	金融政策の目的と独立性の確保
第6回	金融政策の手段
第7回	長期における金融政策の効果
第8回	短期における金融政策の効果（1）：IS曲線とLM曲線の導出
第9回	中間試験（予定）・短期における金融政策の効果（2）：IS-LMモデルにおける金融政策の分析
第10回	金融政策の波及経路
第11回	貨幣量でみた金融政策
第12回	伝統的・非伝統的金融政策
第13回	日本におけるバブル崩壊と経済停滞
第14回	アメリカの金融危機
第15回	ブルーデンス政策

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	50%
レポート	50%
その他	

成績評価の方法（コメント）	中間試験50％と期末課題50％で評価します。 中間試験については、進捗状況にもよりますが8回目から9回目の講義回で実施する予定です。中間試験については持ち込みなしの筆記試験で行う予定です。 出席については、全講義回のうち3分の2以上の出席を求めます。6回目を欠席した時点で成績評価しません。ただし、公欠については配慮します。
---------------	--

テキスト

	著者	タイトル	教科書購入区分	ISBN	出版社	備考
1.	指定しない					

参考文献	内田浩史（2016）『金融 Money, Finance, and Financial System』有斐閣 小川一夫（2009）『「失われた10年」の真実』東洋経済新報社 小林照義（2020）『ベーシック＋金融政策（第2版）』中央経済社 福田慎一（2015）『「失われた20年」を超えて』NTT出版株式会社 家森信善（2022）『ベーシック＋金融論（第3版）』中央経済社 その他、適宜お伝えします。
事前および事後学習の指示	講義中に具体的なことについては指示しますが、配布資料の内容を中心に理解を深めるための予習・復習をするようにしてください。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	金融政策、ブルードেনズ政策、金融システム、ミクロ経済学、マクロ経済学
備考(管理者用)	（旧：金融論）02～10E・CBCC生読替☆（旧：金融論）10B生読替

講義コード	1610540000
講義名称	アントレプレナー論　＜秋＞
科目英文名	Entrepreneurship
開講責任部署	経営学部　経営学科
代表ナンバリングコード	BUSA2600
単位数	2.0
時間割	秋学期: 月曜日 4 時限
講義開講時期	秋学期

担当教員

氏名
小島　正稔

授業形態	講義
------	----

アクティブラーニングの詳細	※受講人数により表記のとおり実施できない場合があります。		
	コメントシート	小レポート/小テスト	宿題(演習問題、e-learning等)

講義・演習概要	本講義はアントレプレナーの市場環境への適応と経営発展を軸とし、起業家の役割からビジネスプランまでを羅網する。 従来、起業家は独自の視点から市場のニーズを発見し、それを軸として大企業と棲み分けをするか、大企業が見逃すか無視してきたニッチにおいて存続、発展をするものという認識が中心であった。しかし現在の起業家は、既にその範疇に留まることなく、わが国経済構造の変革の担い手として、大きな役割を果たさなくてはならない。この視点は、活力あるスモールビジネスを前提に、大企業と棲み分けなどの発想だけでなく、大企業との協働によって、新たな道を切り開く事業機会などが含まれる。本講義は、これらの視点からアントレプレナーと経営発展について考える。本講義では企業家の特質、ビジネスプラン、事業機会と成長、新規企業と市場環境への適応について学ぶことを目的とする。
学習（到達）目標	1．アントレプレナーの社会・経済的役割を説明できる。 2．創業者の類型や特徴を説明できる。 3．ビジネスモデルについて説明できる。 4．起業家のバイアスについて説明できる。 6．ファミリービジネスの特徴について説明できる。 7．スモールビジネスの経営発展について説明できる。 8．フランチャイズングを類別できる。 9．アントレプレナーのビジネスプランについて討議できる。

講義・演習計画

回	内容
第1回	講義の進め方（事前学習の進め方、講義への参加の仕方、講義の流れ・進め方）を説明します。 スモールビジネスの成長と発展
第2回	アントレプレナーとはだれか
第3回	なぜアントレプレーが必要なのか（認識論）
第4回	スモールビジネスの成長と発展
第5回	ビジネスモデル（1）
第6回	ビジネスモデル特許
第7回	ビジネスモデルのケース分析
第8回	ビジネスプランとは何か
第9回	ビジネスプランの概要
第10回	ビジネスプランの構成要素
第11回	起業家のバイアス
第12回	起業家のバイアスとAI
第13回	ファミリービジネス

第14回	フランチャイズिंगの創業機能
第15回	アントレプレナーのまとめ

成績評価の方法（割合）

「成績評価の方法（コメント）」についても合わせてご確認ください。

試験	100%
レポート	0%
その他	0%

成績評価の方法（コメント）	試験はすべて講義の内容的な区切りの段階で行う。成績は試験の得点と課題点（課題点は追加点）による。 試験の回数は、進行状況によるが、基本3回行う。（回数はあくまで進行状況による） 課題はオンラインで課題ビデオを見て応えるものなどを含めり。 成績は上記を基本にしますが、講義に積極的に参加し、発言や質問をしたものには、発言点を追加することもあります。 毎回レジュメを配布します。テキストは使用しない。 試験を複数回、受けないものは採点の対象としない（X評価）
---------------	--

参考文献	小嶋正稔『スモールビジネス経営論』同友館 ISBN 449605048X
事前および事後学習の指示	事前学習 レジュメをダウンロードし、参考文献などで指定された箇所を読み、重要な用語を事前学習すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。また事後学習として、講義で説明された内容を確認、理解すること。この学習には、毎回2時間×15回＝30時間を必要とする。
学習時間	事前学習時間：30時間 事後学習時間：30時間
キーワード	アントレプレナー、スモールビジネスマネジメント、ファミリービジネス、ビジネスプラン